『焚き火の本』
猪野　正哉／著　山と渓谷社（２０２０年）

近年は、空前のキャンプブームが到来し、焚き火ブームの真っただ中。火を囲むというシンプルな行為は原始の時代から変わっておらず、これだけ文明が発達しても、いまだに炎の前に座りたくなるのだから不思議だ。焚き火は万能のコミュニケーションツールである。一人で焚いても決して寂しくならないし、仲間と囲めば親睦が深まり、不思議と場を成立させてしまう力が焚き火にはある。てしまう力が焚き火にはある。まずは、参加人数を決め、場所を選ぼう。薪か炭かを選択し焚き火台を購入したら、ルールを守りさあ始めてみよう。

『14歳の水平線』
椰月　美智子／作　またよし／絵
講談社（２０２０年）

児童文学作家の征人（ゆきと）は、中二の息子の加奈太（かなた）と二人暮らし。加奈太は反抗期で、三者面談があることも、部活をやめたことも話してくれません。息子との関係を模索する征人は、夏休みに故郷の天徳島（てんとくじま）へ加奈太を連れていくことにしました。その島で、加奈太は中二男子限定のキャンプに参加することになります。同年代どうし共感したり、違う考え方に触れたりして、自分を見つめ直す加奈太。一方、征人も久々に訪れた故郷で１４歳の夏のことを思い出していました。

『とんでもスキルで異世界放浪メシ①
豚の生姜焼き×伝説の魔獣』
江口　連／著　雅／イラスト
オーバーラップ（２０１６年）

異世界に召喚された日本人のムコーダは「ネットスーパー」というスキルを持っていた。そのスキルを使えば日本で使っていたネットスーパーを異世界でも扱える。ネットスーパーを駆使しながらおいしいご飯を作って旅をし、国境超えを目指す。ある晩、生姜焼きを作って食べていたところ、後ろから突然伝説の魔獣フェンリルが現れた。ムコーダの作る生姜焼きに心を奪われて、従魔契約を結ぶフェンリル。ムコーダとフェンリルのはらぺこ珍道中の始まりです。

『幸せジャンクション』
香住　泰／著　ディスカヴァー・トゥエンティワン（２０２３年）

運送会社で働く浜浦は、過去の心の傷から、１０年間できるだけ周囲の人間と深く関わらないようにしてきました。ところが、ある日突然勤務先が倒産してしまいます。退職金の代わりにとキャンピングカーをもらった浜浦は、その帰り道、激しい雨の中困っている２人の女性に気づきます。余計なお節介はしないと心に決めていた浜浦でしたが、２人を見捨てることができず、家まで送り届けます。道中で出会う人々を助けながらキャンピングカーで旅をする浜浦の温かな気持ちになれる物語です。

『ソロキャン！』
秋川　滝美／著　朝日新聞出版（２０２２年）

総合スーパーの新商品開発に携わる千晶（ちあき）は、いつも元気に見えるが実は色々ストレスをためている。三十路（みそじ）近くになると、友達にグチってと言う訳にもいかず、また同僚と旅行という気にもなれない。そんな時、一人で行くキャンプがブームになっていることを知る。実は彼女、子供の頃からずっとキャンプを楽しんできたので、焚火に癒されることをよく知っている。キャンプ道具はお財布と相談し、納得のいく物を少しずつ揃えた。やっと晴れた休日、食材を持ってソロキャンへ。絶品料理と焚き火、次の休日に私もちょっと行ってみようか。

『君が護りたい人は』
石持　浅海／著　祥伝社（２０２１年）

芳野友晴（よしのともはる）はキャンプや山登りなどを楽しむ同好会に所属している。メンバーの年齢や職業はバラバラだが、仲良く頻繁に集まっていた。そんな中メンバーの奥津（おくつ）と歩夏（ほのか）が結婚することになり、みんなで記念にキャンプへ行くことになった。ところが、同好会メンバーの三原（みはら）より奥津の殺害計画を聞かされる。三原は奥津が歩夏を強引に手に入れたと考えたようだった。芳野を共犯にしないために計画のすべてを打ち明けなかったが、三原は自分の決意だけは知っておいて欲しいという。三原はどのように奥津を殺害するのだろうか。